

生成AI研究校としての の取り組み

東京都立小岩高等学校

椋本哲也

小岩高校と 生成AI研究校 の紹介

- **小岩高校の概要**
 - 創立60周年を超える都立高校
 - 全都立高校の平均的な学校
 - 成績も真ん中、高校生活をエンジョイできる学校
- **生成AI研究校の概略**
 - 東京都教育委員会からR5年度に9校、R6年度に新たに11校、計20校が指定された
 - 「exaBase」というシステムを使用
 - Azure BASEで動作、プロンプトをAIの学習に用いない
 - 安全性確保が最大の目的

生成AI研究校 の目標

- 安全かつ効果的な利用方法の模索
 - 授業内で安全に利用できるかの確認
- 個別最適な学びのサポート
 - 学生一人ひとりに最適な学習サポートを提供
 - 学習の個別化と効率化を目指す
- 生徒の思考を深めるツールとしての活用
 - 生徒の思考を促進し、深めるためのツールとしての活用
 - 学習過程における洞察と理解の向上を図る

生成AIの危険性と注意点

- ヨーロッパのAI法
 - ヨーロッパではAIの使用に厳しい制限が設けられている
 - 人権や著作権の侵害などが懸念されている
- 日本のガイドライン
 - 文部科学省が示したガイドライン
 - 欧米と比較すると活用が推奨されている
- 高校での使用時の注意点
 - 安全性の確保が最優先
 - 生徒が自身の成長のために利用することが重要

高校の授業での生成AI使用時の注意点

- 安全な環境の確保
 - 生徒が安全に使える環境を用意することが重要
 - 個人情報の流出の懸念を避けるため、プロンプトが学習に使用されない環境を確保
- 自身の成長のための利用
 - 生徒は楽をするためではなく、自分の学びを深め、成長するためにAIを利用する
 - この利用の仕方を徹底することが大切

ハルシネー ションと生成 AIの理解

- 初回授業
 - 各教科での活用前に、生成AIについて理解する授業を行う
 - 生成AIとは何か…LLMやGPTの概略をざっくり説明
 - ハルシネーションについて実感しながら学ぶ実習

ハルシネーション対策とプロンプトの工夫

- ハルシネーションとメディアリテラシー
 - 情報を収集する際は、クリティカルに情報を見ることが重要
 - ハルシネーションへの対策は、メディアリテラシー教育の重要性と同等である
- プロンプトの工夫
 - ハルシネーションを減らすために、プロンプトを工夫する
 - 適切なプロンプトを見つけるための試行錯誤が現在では重要
- 技術の進歩と対策
 - 生成AIの精度は向上しており、ハルシネーションを防ぐ新たな方法も出現している
 - プロンプトの工夫に偏りすぎることは適切ではないと考えている
- 正解を求める「検索ツール」ではなく、思考を引き出す「発想ツール」として使う

エグザベース の追加機能： データ連携

- データ連携機能とは
 - テキストやPDFなど、あらかじめ読み込ませたデータを参照しながら回答を生成する仕組み
 - ChatGPTでは「GPTs」で同様の機能が提供されている
- 教科書データの活用
 - 教科書のテキストデータをあらかじめ読み込ませておく実践を行っている（教科書会社には確認済み）
 - インターネット上の不確かな情報に依存せず、正確性の高い回答が得られる
- 試行錯誤と工夫

校務における 生成AIの活用

- 大学における実践
 - 大学の授業での生成AIの活用が増えている
 - 教員は仕事の中で生成AIを使う機会が多い（例：論文の英語チェック）
- 高校教員の活用
 - 高校の教員も仕事の効率化のためにAIの活用が可能
 - 指導要録や推薦書の作成サポートなどに生成AIを活用
- ランダムデータの生成
 - 実習のためのダミーデータ作成や選択問題の回答生成が便利
 - 生成AIを活用することで、効率的にデータを生成できる

ご清聴ありがとうございました